

歓喜院聖天堂の彫刻北壁

2枚の大きな彫刻のうち左側には、七福神の3神がすごろくに興じる様子が描かれています。左側の吉祥天は、美と富の神様です。吉祥天の対戦相手は、音楽の神である弁財天です。福德増進の神、毘沙門天がその勝負を見守ります。3神はすごろくに夢中で、隣の彫刻で2人の女性をニヤついて手招きしている邪鬼に気づきません。2人の女性のうち1人は、西王母です。

西王母は道教の偉大な神様で、すべての女仙を支配する最上位の女神で富の神様です。西王母とその従者はみかんの木の下に立ち、富を表しています。西王母は、食べた者に不滅の命を与えるという琵琶を手に持っています。

奥殿の横側の壁は、子どもの無邪気さを表す65人の唐子たちが囲んでおり、場違いな陽気さとユーモアなタッチが加えられています。子どもたちは相撲を取ったり、雪玉を作ったり、獅子踊を踊ったりしています。獅子舞を踊る唐子が観客の方に視線を送っていたり、あっかんべーをしたりしている様子が描かれています。

軒下には、溢れる酒瓶から酒を飲む5人の男の楽しそうな様子が伺えます。これは、酒売りが全く酔わない客に酒を出す様子です。この客は酒が大好きな猩々（しょうじょう）という空想上の生き物で、酒売りの徳を褒め、尽きることのない酒壺を与えます。